

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

令和2年度農作物病害虫発生予察情報について

令和2年度農作物病害虫発生予報及び半月報を発表したので送付します。

**令和2年度農作物病害虫発生予報第2号**

令和2年5月15日  
徳島県

**I. 普通作物**

**早期水稻**

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が57.1%、25株当たりの本田生息虫数が5.3頭と、平年(40.6%、1.8頭)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が5月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の後半は曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

**II. 果樹**

**カンキツ**

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の巡回調査では、春葉での発生圃場率が31.3%と、平年(7.7%)に比べて高く、発病度も0.33と、平年(0.05)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が5月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の後半は曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では落花期に薬剤防除を行う。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の温州みかん巡回調査では、枯枝から黒点病菌が確認された圃場率は37.5%で、枯れ枝中の $\alpha$ 型孢子数は $0.3\sim 0.9\times 10^5$ 個/gであった(前年:黒点病菌確認圃場率が85.7%、枯れ枝中の $\alpha$ 型孢子数が $0.2\sim 2.7\times 10^5$ 個/g)。
- (2) 高松地方気象台が5月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間

はほぼ平年並で、期間の後半は曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行い、その後1か月、または降水量200～250mm毎に防除を励行する。

かいよう病(スダチ)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬のスダチ巡回調査では、旧葉での発生圃場率が100%、発病度が8.0と、平年(51.3%、0.7)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が5月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の後半は曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝のせん除を行い、常発園や罹病性品種園では防除を励行する。
- (2) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場(勝浦町)での第1世代幼虫は、5月14日に初発生を認めた(平年:5月17日、前年:5月14日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は、IGR剤・ネオチノイト<sup>®</sup>剤の場合、第1世代は、ふ化幼虫初発生確認の10～15日後、有機リン剤の場合、35～40日後の時期である。
- (2) スダチでは、有機リン剤による防除は行わない。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや少ない)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が43.8%、寄生葉率が10.6%と、平年(47.5%、7.4%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の後半は曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が5.0%、発病葉率が0.1%、発病果率が0.0%)。
- (2) 高松地方気象台が5月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の後半は曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 摘果期に薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が37.5%と、平年(44.5%)並の発生であるが、寄生新梢率は0.9%と、平年(2.9%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の後半は曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達をもたらす恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)  
発生量 平年並(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 予察灯調査においては、ツヤアオカメムシは、勝浦町では平年(4月22日)より9日遅い5月2日に、上板町では平年(4月25日)より9日早い4月17日に初誘殺を確認した(表1)。一方、チャバネアオカメムシは、勝浦町ではまだ誘殺を認めていないが、上板町では平年(4月25日)より14日遅い5月10日に初誘殺を確認した。また、クサギカメムシは、勝浦町及び上板町いずれでも認めていない。なお、4月第1半旬から5月第2半旬までの誘殺数は、平年に比べてやや少なく推移している。
- (2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、5地点で越冬を確認、越冬成虫は0.7頭/m<sup>2</sup>であり(10年間で6番目に高い)、平年(2.3頭/m<sup>2</sup>)並で、前年(成虫確認地点数は9地点、越冬成虫数は7.0頭/m<sup>2</sup>)に比べて低い越冬密度であった。
- (3) 高松地方気象台が5月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の後半は曇りや雨の日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

表1 予察灯誘殺調査結果(単位は頭)

地点名	月	半旬	ツヤアオカメムシ					チャバネアオカメムシ					クサギカメムシ					
			2020年	2019年	2018年	2017年	平年値	2020年	2019年	2018年	2017年	平年値	2020年	2019年	2018年	2017年	平年値	
勝浦	04月	1半旬	0	0	2	0	0.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		3半旬	0	0	3	0	0.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		4半旬	0	0	0	0	0.9	0	0	0	0	0.7	0	0	0	0	0	
		5半旬	0	30	15	1	5.5	0	4	4	0	0.9	0	0	0	0	0	
		6半旬	0	2	20	1	7.6	0	0	11	9	7.2	0	0	0	0	0.1	
	05月	1半旬	3	50	117	12	50.9	0	7	30	10	30.8	0	0	0	0	0.2	
		2半旬	11	19	75	15	57.7	7	9	14	16	13.9	0	0	0	0	0	
	上板	04月	1半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			2半旬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0
3半旬			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4半旬			0	0	2	0	0.5	0	0	1	0	0.4	0	0	0	0	0	
5半旬			0	21	25	3	5.6	0	25	1	0	2.8	0	0	0	0	0	
6半旬			4	1	4	11	9.3	0	1	0	0	1.9	0	0	0	0	0.1	
05月		1半旬	43	15	73	72	28.3	0	15	10	6	7.6	0	0	0	0	0.1	
		2半旬	6	3	11	61	27.5	2	2	3	11	7	0	0	0	0	0.9	

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

III. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

**発生量の表示**

**発生程度**：甚>多>中>少>無

**発生量**：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所

URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosh/>

○ 病虫害の発生予察情報，発生状況，防除法等をお知らせしています。